

2016 (平成28年)
人権展記念事業



ふれあいプラザ

全盲の落語家

桂 福 点

「大笑いゼーションで ノーマライゼーション」

とき 12月10日(土) 午後1時30分～3時
(開場：午後1時)

ところ 大正区民ホール (大阪市大正区千島2-7-95)

内容 講演 + 創作落語 (障がい者理解をテーマとしたもの) + 笛の演奏

※内容は当日変更になる可能性がございますので、ご了承ください。

入場無料・申込不要
手話通訳あり
定員 300名

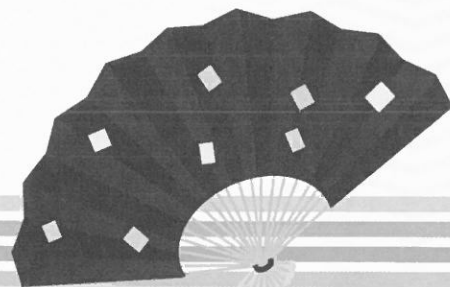


プロフィール

先天性緑内障のため中学生の頃に視力を失いましたが、子供の頃から音楽に親しみ、大阪芸術大学入学後は音楽療法を研究。

1996年、桂福団治に弟子入りし、バリアフリー落語や古典落語を学びました。

2009年、師匠より「桂 福点」を襲名後、音楽療法や講演活動を全国で行っています。NHK Eテレ「バリバラ」に出演しており、NTV「24時間テレビ 2016」にも出演しました。



障がい者就労施設による展示・販売会

とき 12月6日(火)～12月9日(金) 午前11時～午後3時
※6日(火)は午後1時から

ところ 大正区コミュニティセンター 1階・2階

大正、浪速、港、西区内の障がい者就労施設による展示・販売会を行います。 ※商品が完売次第、終了となります。

障がいがある方の体験講座

とき 12月6日(火)～12月9日(金) 午後4時～約30分間

ところ 大正区コミュニティセンター 3階 ホール

- ◆12月6日(火) 視覚障がい研修
- ◆12月7日(水) 車いす研修
- ◆12月8日(木) 聴覚障がい研修
- ◆12月9日(金) 高齢者研修

車いす、視覚障がい、聴覚障がい、高齢プログラムをご用意しております。実際に体験をすることで、当事者の立場になって考えることができるようになります。「自分とは違う誰かの視点で考え適切な理解のもと行動するマナー」を「ユニバーサルマナー」と名付け、普及に務めます。

主催 大正・浪速・港・西区役所

お問合せ ■大正区役所市民協働課：TEL 4394-9743 / FAX 4394-9989

■浪速区役所市民協働課：TEL 6647-9743 / FAX 6633-8270

■港区役所協働まちづくり支援課：TEL 6576-9787 / FAX 6572-9512

■西区役所まち魅力創造課：TEL 6532-9989 / FAX 6538-7316



2016 第32回

—よき日をめざして—

たいしょう人権展

異和共生～ダイバーシティ(多様性の受容)～

とき

2016
(平成28年)

12/6(火)▶12/10(土)

午前10時～午後8時

※ 6日(火)は午後1時から、
10日(土)は午後4時まで

入場無料

ところ

大正区コミュニティセンター

(大正区千島2-6-15) ※地図は裏面をご覧ください。

申込不要

内容

- ☆パネル展示 ☆人権啓発ビデオコーナー
- ☆大正区内小中学生の「人権啓発標語・ポスター」コーナー
- ☆障がいのある方の体験講座 ☆障がい者就労施設による展示・販売会
- ☆講演・演奏・落語(手話通訳あり)



12月6日(火)

午後2時～午後3時30分

「笑って考えよう！
身近な人権」

三重県津市生まれ、大学時代から四十余年の落語歴と三十二年の教員歴を活かし、現在、講演会と落語会の二つの活動をしています。日常の中にある身近な人権問題に気付いてもらおうと精力的に活動している社会人落語家で、小学校教諭として1年間に教え子を二人亡くした経験や、妻を看取った体験を交えて「命の大切さ」さらには「子どものいじめ」等の身近な人権問題について、落語の口術を活かしてお話します。



12月7日(水)

午後7時～午後8時

「唄って踊って
平和をつかめ」

沖縄県西表島出身の大地と心に木を植える三線アーティスト「まーちゃんうーぼー」が率いるバンド。島唄やオリジナル曲、ブドゥリ太鼓やパパイヤダンスなど、老若男女みんなで楽しめるステージを展開。「風人(かじびと)＝自然と共に生きる人」をコンセプトに、命を大切にすること、自然と共に生きることの大切さを伝え、沖縄からの平和の願いを届けている。

現在、地球に緑と笑顔を増やそうと、市民団体「NGO風人ゆいまーる」の主宰や「中国・内モンゴル植林ツアー」また、東日本大震災から福島県の子どもの避難や受け入れ活動に力を入れている。



12月8日(木)

午後2時～午後3時30分

「自分らしく生きる」

兵庫県尼崎市で男性として生まれる。体は男性だが心は女性という「性同一性障がい」と向き合いながら音楽の道へ進む。彼女の歌声は、その歌唱力はさることながら、男声・女声の使い分けをして「二色の声を持つ歌姫」と評される。性的少数者(LGBT)への理解は進む一方で、今も職業や住居などの面で制約を受ける人は少なくない。「当たり前」の事を当たり前でできる社会になるように」その思いを胸に現在、コンサート活動・テレビ出演・講演会と精力的に活動している。



12月9日(金)

午後2時～午後3時30分

「在日アフリカ人として
～異文化理解のメッセンジャー～」

南アフリカ共和国で3本の指に入るマリンバ奏者である、ジョゼフ・ンコシを中心として結成されたグループで、南アフリカの伝統楽器マリンバや歌を織り交ぜ、アフリカの伝統音楽やオリジナル曲を演奏します。アパルトヘイト廃止後に様々な人種の人々が公共の場所で歌えるようになった「がんばろう、前に進もう」といった意味の「シヨシローザ」や、母親に感謝の気持ちを伝える「ママリエ」等の曲も演奏されており、在日アフリカ人として、南アフリカ共和国で行われた人種差別についてのお話や、互に関心を持つことの重要性を歌を通して語ります。